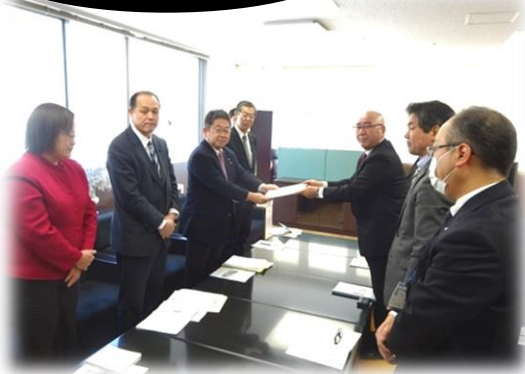


国会調査団その2 脱仮設住宅、住宅&生業再建が課題—大槌、釜石



2月21日、党国会調査団一行は、大槌町、釜石市を訪れ、首長と懇談、釜石市鶴住居地区の現地調査など行いました。

大槌町役場で町長との懇談では、深刻な人口減少（震災前人口の22%減は県内最大の減少率）のなか、町中心部の区画整理事業地での住宅建設に100万円の補助、また全壊世帯の新築世帯に230万円の住宅支援補助金など町独自の施策を述べ、被災者が町に戻ってもらうよう期待していると述べました。また、仮設住宅から抜け出せない被災者も多く、さらに出た後の再建意向が決まらない人や災害公営住宅に移行した人の孤立化などが問題になっていることなど現状を訴え、国の支援を強く求めました。小池書記局長は、国の被災者生活支援金の拡充（現行300万円から500万円）や来年度予算案の組み替え動議を求めていくと応じました（写真左上）。

* * * *

釜石市の野田市長は懇談で、市独自に130万円の住宅再建補助を給付していることや若者の定住促進のため市が雇用促進住宅を購入し低額家賃で貸し出す事業を行っていると説明しました。また提供戸数を増やしたいが財源不足で増やせない現状を訴えました。小池氏は「大事な取り組みだ」と述べ国の財政支援を被災地優先で行うよう国に求めていきたいと応じました（写真下）。



鶴住居地区では町づくりの現状について説明を受け、2019年ラグビーワールドカップ開催地の復興タジアムの建設状況を視察しました（写真上）。



	死者・不明者	人口減少率
陸前高田市	1807人	16.2%
釜石市	1145人	12.5%
大槌町	1277人	21.5%

釜石市の復興状況 災害公営住宅は予定の1316戸のうち1月末までに1214戸(92%)が完成、18年度全戸完成めざす。市街地東部地区に市民ホールが開館。鶴住居地区は土地造成が終盤。

大槌町の復興状況 災害公営住宅は予定の885戸のうち

17年度末までに560戸(63%)が完成する。土地区画整理事業、防集は一部地区を除き17年度末で終了し、住宅や店舗再建が本格化する。中心部の町方地区に複合文化施設「おしゃつち」が3月末完成予定。

被災した県立高田病院開院

被災した県立高田病院（陸前高田市）が3月1日新築開院した。これで大槌病院、山田病院と合わせ被災した県立3病院はすべて再建された。同病院は鉄筋2階建て、内科・小児科・外科・整形外科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハ科の8科で診察、病床60床（写真右）。

